

2017年6月12日

静岡図書館友の会

代表 田中文雄 様

時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

先日頂いた公開質問状について、別添のとおり回答します。

静岡県知事選挙立候補者 川勝 平太

—今後の静岡県の図書館行政について次の質問にお答えください—

- 1・図書館は「自治体の文化のバロメーター」と言われていますが、静岡県の文化・教育行政に於ける図書館の位置づけは、どのようなものであるべきとお考えですか。お聞かせください。

本県においては、図書館行政は、教育委員会が所管しています。

私は、図書館が、“ふじのくに” 静岡県の文化や経済など、県民のあらゆる活動を支えその発展に寄与する重要な知的基盤であるべきと考えています。具体的には、県民の自立的な判断を支えるとともに、生涯学習や読書活動の拠点であるとの位置づけの下、整備・運営されるべきです。

- 2・静岡県立中央図書館は、直営の運営体制を堅持し、県民に充実したサービスを提供しています。専門性と知的財産を次世代に継続できる直営体制を今後も続けていただけますか。

県立図書館は、市町立図書館等に対する支援・指導や、県民のニーズに対応した専門性の高いレファレンス（調査相談）サービスなどが、重要な機能として期待されています。今後とも、県民サービスの向上を目指して運営体制を含む不断の見直しに取り組むことが必要ですが、現時点では、県の直営体制が基本と考えます。

- 3・県内の市町図書館への支援、他機関とのネットワーク、ユニバーサルデザインについてのビジョンをお聞かせください。

県立図書館にとって最も重要な役割の一つは、市町立図書館への支援です。今後も人的・物的な支援を通じて市町立図書館の振興を図ることが必要と考えます。

また、県全体の知的基盤の向上を目指す上では、資料の収集や活用などの面における他機関との連携が今後ますます重要になります。

図書館は県民誰もが利用することができる生涯学習や読書活動の拠点であることから、ソフト・ハードの両面でユニバーサルな環境を整備する必要があります。

- 4・今後の新館建設計画についてのビジョンをお聞かせください。

現在の施設は建築から 48 年が経過し、老朽化・狭隘化への対応が喫緊の課題となっております。また、この間に図書館を取り巻く環境も大きく変化しております。このため、県教育委員会では現在、県民にとって最適な図書館のあり方を検討しているところです。県立図書館は、本県の文化・教育行政の基盤を担う機関として最重要な施設であることから、私としても、木苗教育長をはじめとする県教育委員会の皆様と連携して、東静岡駅南口県有地に整備検討を進めている「文化力の拠点」施設への導入も含め、新たな図書館の整備を早期に進めたいと考えております。